

## 3-5 地域における防犯活動に関する実践事例



### 取組の概要

川越市の岸町1丁目～3丁目の自治会では、近くの交番がなくなったことをきっかけに、地域の安全は住民自らが守るという機運が高まった。

主婦や高齢者を中心に、自転車の前かごに黄色いステッカーを付けたパトロール活動が始まった。

## ながらパトロール運動

21 埼玉県 川越市 岸町1丁目～3丁目自治会

### キーワード

- ◆ 買い物しながらパトロール
- ◆ 地域の「目」が感じられる取り組み
- ◆ 地域の連帯感にも大きな効果

### 取組の方針と内容

#### ◇ 買い物しながらパトロール

「防犯パトロール」を連想すると、「パトロールしなければならぬ」「犯罪者を見逃さない」といった面倒で危険を伴うイメージが少なからずあり、負担を感じる住民がいるのも事実である。

そこで地域の住民が気軽に参加できるように、「買い物をしながら」でも防犯対策に役立つ取り組みとして始めたのが、「ながらパトロール」運動である。

#### ◇ 地域の「目」が感じられる取り組み

地域の住民が一斉に自転車の前かごに黄色いス

テッカーを付けることで、犯罪企図者に対して地域の「目」をアピールすることができる。これにより、地域から自然と監視されているという雰囲気がつくられ、地域全体の心理的な視界が良好になる。

#### ◇ 地域の連帯感にも大きな効果

また、出かけた際に同じステッカーが付けられた自転車を見かけると、自然にあいさつするようになった。この取り組みにより、地域のコミュニケーションも非常に良くなったという（写真①）。



① 買い物しながらのパトロール

### コメント

防犯は手軽に誰でも参加できることが継続する鍵となる。直接的効果よりも、参加することによる副次的効果を期待したい。防犯ステッカーなどは日常的に目につくものでありロゴなどを工夫することが望まれる。



## 取組の概要

川越市の西小仙波町1丁目自治会では、公園の清掃をしながら小中学生に声をかけて登校を見守る取り組みを行っている。

小中学生も公園の維持管理に参加しており、地域が一体となって取り組むことで、コミュニティの強化にもつながっている。

## 声かけ運動・花いっぱい運動

22 埼玉県 川越市 西小仙波町1丁目自治会

### キーワード

- ◆ あいさつでまちを明るく
- ◆ 小中学生も公園の清掃に参加
- ◆ 地域の連携が防犯対策に

### 取組の方針と内容

#### ◇ あいさつでまちを明るく

西小仙波町1丁目自治会では、毎朝、母親たちが公園の清掃をしながら小中学生に声をかけ、登校を見守る取り組みを行っている。(写真①)

#### ◇ 小中学生も公園の清掃に参加

公園の清掃は、小学生も月1回参加している。また、公園の中には花壇があつて、毎朝中学生が水やりをしてから登校している。小中学生が、地域の大人と一緒に清掃を行うことで、地域の絆が強くなる。

### コメント

声かけ運動は、地域の子供と大人のコミュニケーションの絶好の機会となる。相互の認知も進み、地域への帰属意識が向上される。運動会や盆踊りなど、声かけ運動をより進化させる地域活動が期待される。

さらに、地域の大人が自然と子どもたちを監視するようになるとともに、なわばり意識も強くなり、防犯につながる。

#### ◇ 地域の連携が防犯対策に

地域が連携して公園で花を育てる、ゴミ拾いをするといった活動は、地域の秩序違反を減らすだけでなく、まち全体の環境美化につながる。また、まちがきれいになり秩序違反がなくなると、犯罪企図者に「ここでの犯罪は無理だ」と思わせる効果もある。



① 地域のみんな  
で  
声かけ運動

①



## 取組の概要

川越市では、廃止された旧交番を再活用し、「地域自主防犯ステーション」を整備している。

地域防犯活動の拠点として、地域住民主導による防犯活動の推進を図っている。

## 地域自主防犯ステーション開設

23 埼玉県 川越市

### キーワード

- ◆ 「地域自主防犯ステーション」がスタート
- ◆ 「市民花壇」を設置し、登下校に合わせた水やりを実施
- ◆ 地域主導の防犯活動を展開

### 取組の方針と内容

#### ◇ 「地域自主防犯ステーション」がスタート

川越市は、川越警察署の協力により、再編計画に基づき廃止された旧交番を再活用する取り組みを進めている。防犯パトロール等を行う団体の活動拠点とするため、廃止された旧交番を「地域自主防犯ステーション」として整備した。

その第1号は、平成18年10月24日にスタートさせた、岸町地域自主防犯ステーション運営協議会が管理運営を行う「愛称：うとうざか烏頭坂ステーション」である。

また、第2号として10月30日に、小仙波町周辺地域自主防犯ステーション運営協議会が「愛称：ら（羅）館」をスタートさせた。（写真①）

愛称は、地元住民が自ら募集し決定した。

#### ◇ 「市民花壇」を設置し、登下校に合わせた水やりを実施

最寄り交番へのホットラインとして緊急通報装置や青色回転灯を設置した。（写真②③）また、お年寄りたちが気軽に防犯活動に参加できるよう「市民花壇」を設置し、登下校に合わせた水やりにより、子どもたちの安全を見守るようにした（写真④）。

#### ◇ 地域主導の防犯活動を展開

防犯ステーションに関わる施設整備は、市が負担している。しかし、維持管理は、基本的に運営管理者が負担することにしており、「自分たちの地域は自分たちで守る」を合い言葉に、地域住民主導による防犯活動を展開している。（写真⑤）



また、警察署もステーションへの警察官の立寄り、警察車両による駐留警戒及び地域住民との情報交換などの支援を行っていく予定である。

## 評価と今後の課題

川越市では、犯罪に対する地域の「目」を養うと

ともに、そこから生まれる団結力の「芽」を育てていくことが大切であると考えている。また、防犯活動を継続させていくためには、財政状況の厳しい中で、地域住民が連携していかに取り組んでいくかを重要な課題として捉えている。



①

- ① 小仙波町周辺地域自主防犯ステーション「愛称：ら（羅）館」
- ② 緊急通報装置
- ③ 青色回転灯
- ④ 市民花壇（登下校に合わせた水やりを実施）
- ⑤ 地域住民主導の防犯パトロール



②



③



④



⑤

### コメント

地域活動を本格的に展開しようとする、必要となるのが地域拠点である。空き交番や空き商店の利用、プレハブの設置による民間交番の設置などの事例がある。いずれにせよ、経費が発生するため財政的基盤が必要となる。



## 取組の概要

松伏町在住の主婦が、警報ブザーを収納できる通学帽を考案した。

ランドセルに警報ブザーをつないでいる子どもが多いが、通学帽に取り付けた方が、いざというときに使いやすいと考えた。

## 母親が考案した警報ブザーが収納できる通学帽

24 埼玉県 松伏町 在住の方

### キーワード

- ◆ 主婦のアイデアで防犯対策
- ◆ すぐに鳴らすことができる工夫
- ◆ 地域の主婦によるパトロール活動も実施

### 取組の方針と内容

#### ◇ 主婦のアイデアで防犯対策

警報ブザーが収納できる通学帽は、松伏町在住の主婦が考案したものである（写真①）。平成17年12月に発生した栃木県今市市の小学生殺害事件を見て、長年“みどりのおばさん”を務めていたこともあり、「子どもたちのために何かできることはないだろうか？」と考え、この帽子を思いついた。

#### ◇ すぐに鳴らすことができる工夫

そもそも警報ブザーは、いざ襲われそうになった

#### コメント

子供の警報ブザーには工夫の余地がある。業界による基準づくりが進んでいるが、「いざ」という時に利用できるよう改良する必要がある。主婦の防犯への関心が改良を生んだことは、様々な防犯活動改善の提案の兆しと受け止めたい。

時に、すぐに音が鳴らせないと効果はない。しかし、子どもたちはランドセルにしまっているか、つないでいることが多い。そこで、「帽子にポケットを付けて取り付けたら良いのでは！」と思いつき、試作品を作ったところ好評であった。平成18年12月から同町内の洋品店にて購入できる。

#### ◇ 地域の主婦によるパトロール活動も実施

現在、地域の主婦による”子どもを守り隊”パトロール活動も併せて行っている。子どもたちがより安全でいられるように、メンバーとともに新しい安全グッズを考案したいとのことである。



① 警報ブザーが収納できる通学帽



## 取組の概要

性犯罪に関わる連れ去り未遂事件が発生したことにより、新居浜市立角野中学校PTA父親部を中心とした、親としての防犯活動が始まった。

平成17年3月各校PTAに呼びかけ「NPO法人守ってあげ隊」を発足した。

## NPOが主体となった「見せる防犯」

25 愛媛県 新居浜市 NPO法人『守ってあげ隊』

### キーワード

- ◆ 『親がやらねば誰がやる』をスローガンに
- ◆ 青色で統一したユニホーム
- ◆ 子どもたちの非行防止にもつながる取組

### 取組の方針と内容

- ◇ 『親がやらねば誰がやる』をスローガンに  
NPO法人「守ってあげ隊（通称GPM）」は、平成16年8月『親がやらねば誰がやる』をスローガンに、PTAが中心となって立ち上げた組織である。  
子どもたちの登下校時のみの安全確保だけではなく、24時間体制での見守りを行えるように会員500名を超えるボランティア活動を企画運営している。

- ◇ 青色で統一したユニホーム  
青色で統一したユニホームの着用や、青色回転灯を装備した車両での見守りパトロールなどの「見せる防犯」を行うことにより、地域での犯罪発生の抑止力になっている。

### コメント

抑止効果を上げるための防犯パトロールには、制服など「見せる」演出と様々な知識と技能が要求され、警察との連携も必要となる。専門的な防犯講習や、マニュアル作成などが必要になる一方、ケガなどの危険性も高まり保険なども必須となる。

また、通常の防犯パトロールに加え、警察署、市役所と連携し、不審者情報を登録会員の携帯メールに配信するシステムを整備しており、犯罪に対して万全な体制を整えている。

- ◇ 子どもたちの非行防止にもつながる取組  
イオン新居浜ショッピングセンターでは、年間約100件の万引きが問題となっていたが、「見せる防犯」が功を奏し、1/3に減少した。



①  
ショッピングセンターでの防犯活動

①





## 取組の概要

吹田市では、警察と合同で市民向けの防犯講習会を定期的に開催している。

講習会に参加した方が、毎日の愛犬の散歩と防犯パトロールを兼ねてみようと考え、結成したのが「わんわんパトロール隊」である。

## 「わんわんパトロール隊」

26 大阪府 吹田市

### キーワード

- ◆ 飼い主のネットワークを防犯活動に生かす
- ◆ 緑のバンダナがトレードマーク
- ◆ 地域の絆が子どもたちにも

### 取組の方針と内容

◇ **飼い主のネットワークを防犯活動に生かす**  
犬の散歩を通した飼い主たちのネットワークは、とても広範囲であることから、「わんわんパトロール隊」は地域に瞬く間に広がった。

◇ **緑のバンダナがトレードマーク**  
犬の散歩の時間を登下校時間に合わせることで、周囲に目を配り、子どもたちの見守り活動を行っている。また、犬にはバンダナ（写真①）を巻くこと

で、視覚的な防犯効果も狙っている。子どもたちも、このバンダナを巻いた犬を見かけるだけで、とても心強く感じているとのことである。

### ◇ 地域の絆が子どもたちにも

パトロール隊の一員であった犬が事故で亡くなった際、子どもたちからはお礼の手紙がたくさん届いた。関係者によると、このようなコミュニケーションの広がりや、安心・安全なまちづくりの実現に、重要な役割を担っていくことになるとのことである。



① 犬が巻いているバンダナ

### コメント

わんわんパトロールは手軽にできる活動で、犬を介してのコミュニティーも結成できる。また犬の散歩のマナーも向上し効用は大きい。漸次専門的な知識を得て高度化し、相互に情報を共有する会合をもつなど更なる進化が期待される。